

「国保を良くする日田の会」が市長に要望

6月1日、「国保を良くする日田の会」（代表浦塚俊弘氏）の6団体7人は、原田市長に国保税の引き下げ、子育て世帯の負担の軽減を求めました。市長は「消費税が上がるので基金を確保し様子を見たい。子育て環境の整備は必要。検討してみたい」と述べました。



要望内容は①基金を活用し税を引き下げること②子育て世帯の負担軽減③税金の滞納対策では実情を十分に把握したうえで適切に対応することの3点です。

日田民商の伊藤事務局長が要望書を読み上げその後

意見交換。初めて参加した2人の若い女性の民商会員は、3人の子育て真っ最中です。「高い税金が口座からどつと引かれている。子育てが大変。引き下げて」と要望。大谷市議は「6億

4千万円も基金としてため込まないで少しでも負担軽減に活用してほしい」と要望。市長は「消費税が上がるし広域化になって先がどうなるかわからないので基金は確保し、今年度は税率を据え置いて様子を見たい」と述べました。

また国保税の滞納対策については、平成26年1月の自治省事務連の内容を担当に徹底するように求めました。懇談の中では仕事をしている職場まできて給与の差し押さえされたことなどの例が出され「職を失うことが懸念されるようなことは問題だ」と指摘し改善を求めました。

高い国保税引き下げて！

雨水対策で県市に要望

吹上町
自治会

5月30日、吹上町自治会は、雨水による内水氾濫対策について、日田林工高校と市に要望書を提出しました。これには行村孝自治会長、高瀬晃副会長、大谷敏彰市議が参加しました。

日田林工への要望は、敷地の雨水が横の水路に流れ溢れることが住宅浸水の原因となっています。そこで中城グラウンドに整備したような一時雨水を貯留する施設を整備していただくよう住民の署名580名（18歳以上約77%）分を添えて改善を求めました。また市に對しても渡里川の改修も言

日田林工のグラウンドに一時貯留施設を

めて県に強く要望していた。だくこと、その他、小迫トネルから吹上町に流れ込む雨水の対策も改善を求めました。

上の写真は市役所4階で部長・課長に説明。下の写真は日田林工高校の校長等に説明し要望

行村会長は「平成24年から3度も浸水被害にあい住民は苦難を強いられ続けている。早急に改善を求めたい」と訴

